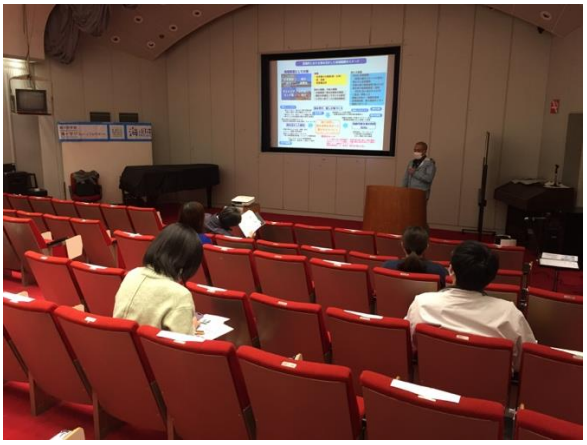
真鶴町立遠藤貝類博物館

博物館を中心とした持続可能な海の学びのための海辺の利用のルールづくり

実施期間：2021 年７月７日（水）～2022 年３月 31 日（木）



【事業の内容・目的】

■真鶴の海を持続可能な形で活用するために、これまで当館が「海の学び」に関する活動で築いたネットワークを活かし、町の行政と町民がともに参加する「海辺のルール」づくりを実現する。

■活動①「持続可能な海辺の利用のためのルールづくりに向けた協議の推進」では、町の行政と海に関するステークホルダーによる協議会を設定し、ルールづくりを具体化に進めた。

■活動②「海辺のルールづくりに向けた海の魅力の再認識と保全・活用意識の浸透」では、講演会や生物展示会を通じて、町民に地域の海の魅力を実感してもらう機会を作った。

■活動③「自然を活かした観光の基盤づくりと実証」では、海を活かした自然体験イベントを開催し、町内外にアピールするとともに、観光プログラムの実証例として位置付けた。

※上記写真等は特別な許可を得て撮影されたものです。無断転載等はできません。

活動の様子

１．持続可能な海辺の利用のためのルールづくりに向けた協議の推進

a.「海を学び、海に親しむ場づくり協議会」の開催

【開催日時】2021 年 11 月 17 日（水）、2022 年３月 25 日（金）
【開催場所】真鶴町民センター
【参加者数】計 19 人
【活動内容・目的】

●町の海の持続可能な活用を目的とした海のルールの策定について議論するため、町役場の各部署と町の海に関するステークホルダー（漁協や観光協会など）に呼びかけ、協議会を設立した。

●３回の協議により（第２回はまん延防止措置発出のため協議会各メンバーと個別に会談する形をとった）、現在の海の利用状況を情報共有し、その上で早急に利用のガイドラインを作るべき課題と、さらなる意見集約が必要な課題を整理し、ルールの素案を作成して、町長に提言した。

b. 協議会役場内ワーキンググループの開催

【開催日時】2021 年 10 月 28 日（木）、2022 年１月 27 日（木）、
３月 22 日（火）
【開催場所】真鶴町役場、真鶴町民センター
【参加者数】計 21 人
【活動内容・目的】

●上記の協議会に先立って、役場内で情報を共有し、また協議会出席者以外からも意見を集める目的で、職員が部署横断的に参加できるワーキンググループを開催した。

c. 役場職員研修「海を活かしたまちづくり研修会」の実施

【開催日時】2022 年３月 10 日（木）、３月 11 日（金）
＊同日とも同じ内容
【開催場所】真鶴町民センター講義室
【参加者数】計 17 人
【活動内容・目的】

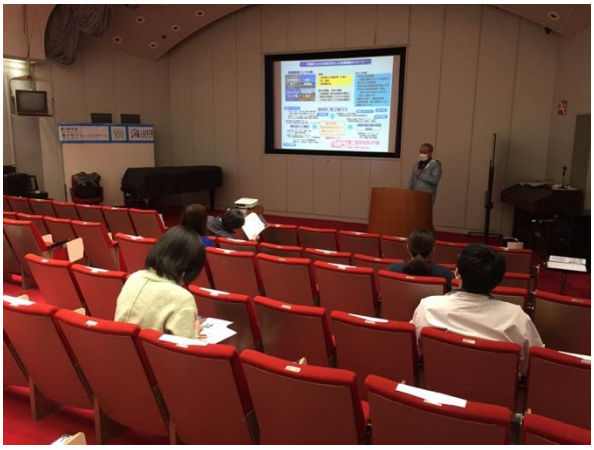
●海辺のルールづくりの必要性を役場職員と共有し、取組への積極的な参加を促すため、職員向けの研修会を行ない、当館のこれまでの海の学びに関する活動や他市町村での事例について紹介し、海の活用のために行政側ができることについて参加者と意見交換を行なった。

※上記写真等は特別な許可を得て撮影されたものです。無断転載等はできません。

a. 「海を学び、海に親しむ場づくり協議会」の開催
当館はこれまでの海の学びに関する活動の一環で、町の海に関する情報共有の場として同名の協議会を開催してきたが、それを町の海の持続可能な利用に必要なルールづくりを議論する場として、行政側も参加する新たな組織として設定した。今年度は新型コロナウィルス感染症拡大の影響も受けつつも、３回の協議を行なうことができ、ルールづくりに向けて意識を共有し、具体的なルールの素案まで議論が進んだ。その中で、早急に利用のガイドラインを作るべき課題（主に密漁、生物保護、水面のレジャー利用など）と、さらなる意見集約が必要な課題（海岸の占有、釣り、ゴミなど）を整理することができ、ルールの素案を作成して、町長に提出した。

b. 協議会役場内ワーキンググループの開催
先の協議会の開催に先だって役場内で開催し、行政側としてどのようにルールを具体化していくか意見交換を行なった。参加者とは少人数制ならではの積極的な意見交換を図ることができた。一方で、開催目的の１つに、協議会に出席しない若手職員にもグループへの参加を促し、情報を共有することがあったが、部署により担当業務との時間配分が難しく、職員の積極的な参加の実現は難しかった。

※上記写真等は特別な許可を得て撮影されたものです。無断転載等はできません。



c. 役場職員研修「海を活かしたまちづくり研修会」の実施
町の海の自然について紹介したのち、当館がこれまでに取り組んできた海の学びに関する活動や、他の市町村での海を活かした事例を紹介し、その後、参加者に意見を発表してもらった。意見交換の中で、海辺のルールづくりを役場内で部署横断的に、かつ各人が主体的に取り組むためには、利用者側と行政側の両方の目線を持つことが重要であるという共通認識を持つことができた。

【参加者の声】

◯参加者で海について意見交換ができたことで、他の人が何を感じているか知れて良かった。（役場職員研修）
◯海のルールづくりの重要性は理解できたが、あらためてその整備の難しさも感じた。（役場職員研修）
◯「自由利用」の難しさを感じた。法律での対応が難しい中、地域の合意としてローカルルールを整備することは大切だと思った。（役場職員研修）
◯当たり前にある大切なものを、100 年先も残せるように活用していきたい。町民・観光客にも、適切な「海の遊び方」を伝えていけたら良いと思う。（役場職員研修）

※上記写真等は特別な許可を得て撮影されたものです。無断転載等はできません。

2．海辺のルールづくりに向けた海の魅力の再認識と保全・活用意識の浸透

a. 町民向け海の講演会「海トーク」の開催

①美しきプランクトンの世界＆夜のプランクトン観察
②しらすを体験するには？～地元の海と絵本「しらすどん」～
＊全５回の予定だったが、新型コロナウィルス感染症の拡大状況を受け、２回の開催となった

【開催日時】①2021 年 10 月 28 日（木）　19:00～21:00
　　②2021 年 12 月 10 日（金）　19:00～21:00
【開催場所】真鶴町民センター講堂
【参加者数】①32 人、②21 人
【活動内容・目的】

- ●町民と周辺市町村在住の大人を対象にした講演会。アクセスのよい町の公民館で平日夜間に開催したこと、さまざまな分野の講師を招聘したことが新たな参加者層の獲得につながり、好評の声を多くいただいた。
- ●海辺のルールづくりに向けて町民の協力を得るため、講演後にルールづくりの取組の説明と簡単な意見交換を行ない、理解の浸透を図った。

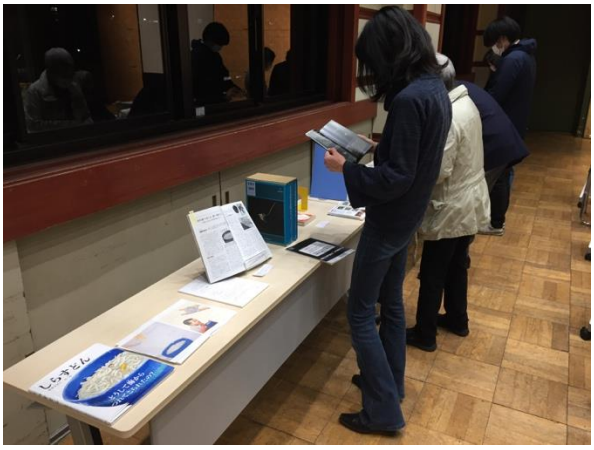
b. 海の生物展示観察会

【開催日時】2021 年 12 月 26 日（日）10:00～13:00
【開催場所】真鶴港岸壁広場（真鶴なぶら市）
【参加者数】167 人
【活動内容・目的】

- ●町のお祭り会場に生物のタッチプールと顕微鏡コーナーを出展し、普段海に接する機会がない方にも海に興味を持ってもらえる機会を作った。

a. 海トーク① 美しきプランクトンの世界＆夜のプランクトン観察
町に研究拠点を置く横浜国立大学の下出信次教授を講師に招き、町の海で見られるプランクトンについて講演いただいた。また、顕微鏡を用いて実際にプランクトンの観察を行なった。下出教授はインスタグラムなどでプランクトンの美しい映像を多く発信しており、「美しさ」という入口から、参加者に海への興味を喚起することができた。

※上記写真等は特別な許可を得て撮影されたものです。無断転載等はできません。



a. 海トーク② しらすを体験するには？～地元の海と絵本「しらすどん」～
小田原出身の絵本作家の最勝寺朋子さんを講師に招き、著作「しらすどん」とその制作に関わるエピソードをお話しいただいた。しらすにもいくつかの種類があること、しらすを専門に獲る漁があること、しらすとプランクトンの関係などに参加者は聞き入っており、しらすという身近な食材と、絵本制作という独自の視点の両面から海を学ぶ機会となった。作家自身による読み聞かせも好評だった。

b. 海の生物展示観察会
海岸で採集したヒトデやウニ、貝類などを入れたタッチプールを設置し、来場者に直接触れてもらい、生物を実感してもらった。プランクトンや標本を観察できる顕微鏡コーナーも併設し、スタッフによる専門的な解説を実施した。来場者には幼児や高齢者、身体障害者も多く、海へのアクセスが難しい方々に対しても海への興味の入口を作ることができた。また、なぶら市には町外からの参加者も多いため、町の海を町外にアピールすることにも繋がった。

【参加者の声】
○実際に自分の目でプランクトンを見て、身近な生態系を大切だと思うとともに、自然の中で遊びたい気持ちになった。（海トーク①）
○植物プランクトンの重要性、特に光合成と酸素生産について知れて良かった。（海トーク①）
○絵本を入り口に海を学ぶという企画はとても良かった。絵本は比喩的なものなので、個々が想像を働かせて考える余地があると思います。（海トーク②）
○今まで何気なく食べていたしらすどん、その背景に奥深い世界が見えました。（海トーク②）

※上記写真等は特別な許可を得て撮影されたものです。無断転載等はできません。

３．自然を活かした観光の基盤づくりと実証

a. 自然体験イベント「海さんぽ」の開催

①ひものづくり体験＆プランクトン観察
②真鶴半島ネイチャーウォーク
③三ツ石海岸ビーチコーミング

【開催日時】①2021 年 11 月６日（土）10：40 ～ 15：00
②2021 年２月６日（日）10：00 ～ 12：30
③2022 年３月５日（土）10：00 ～ 12：30

【開催場所】①真鶴魚市場、真鶴町観光協会
②遠藤貝類博物館、真鶴半島の照葉樹林（お林）、三ツ石海岸
③遠藤貝類博物館、三ツ石海岸

【参加者数】①18 名、②27 名、③23 名

【活動内容・目的】

●海の学びを広く届けるため、町の海の自然をさまざまな視点から実感できる一般参加型の自然体験プログラムを実施した。

●「海辺の利用ルール」の趣旨に基づき、海を持続可能な形で活用する観光プログラムの実証として取り組んだ。

b. 真鶴の海の持続可能な利用に関する SNS 発信

【開催日時】2021 年８月 11 日（木）～ 2022 年３月 30 日（水）

【開催場所】Facebook ページ

【閲覧者数】計 6208 人（2022 年３月 31 日時点）

【活動内容・目的】

●町の自然に興味を持ってもらうため、親しみやすくかつタイムリーな海の話題を発信し、海の持続可能な利用に向けた意識の醸成に務めた。

a. 海さんぽ ①ひものづくり体験＆プランクトン観察

ひもの作りを通じて町の漁業を、プランクトン観察を通じて海の食物連鎖を知り、両者のつながりを実感するプログラム。参加者は定置網で獲れたサバなどを、漁協組合員の指導のもと、包丁で捌いて塩水に浸し、乾燥させる工程を体験してもらった。乾燥の間にプランクトンの採集と観察を行ない、海の食物連鎖や海洋プラスチックについて説明した。魚を捌く過程で魚の口や胃袋を観察するため、プランクトン観察での理解度が高まった。

※上記写真等は特別な許可を得て撮影されたものです。無断転載等はできません。

a. 海さんぽ ②真鶴半島ネイチャーウォーク

真鶴半島の照葉樹林（お林）から海岸までを散策しながら半島の地質や植生を学び、自然海岸が多く残る真鶴半島の魅力を再発見するプログラム。海と森のつながりについても知識を深める。初めから海に興味を持つ人に限らず、未就学児から高齢の方まで幅広い層の参加があり、広く海の学びを届けることができた。

a. 海さんぽ ③三ツ石海岸ビーチコーミング

秋～冬の間でも海を楽しむ方法としてビーチコーミングを紹介した。町の海の特徴を説明した後、海岸に出て漂着物を集め、配布した木製ケースにそれを並べて各々の標本箱を作成した。海流と生物の分布、海と陸のつながり、海洋ゴミやマイクロプラスチック問題などについて解説した。ビーチコーミングは比較的気軽に海を楽しめる活動であるため、参加者からは今後個人としても継続したいという声が聞かれた。

b. 真鶴の海の持続可能な利用に関するSNS発信

町の自然に関するショートコラムを町内外に向けて全 11 回発信した。町の海で最近起こっている変化（水温上昇、生物の変化など）についても触れ、持続可能な自然の利用の意識喚起に繋げた。イベント参加者の中からは、一度イベントに参加したことをきっかけにSNSを見るようになり、それが興味をさらに広げることに繋がったという声が聞かれた。

※上記写真等は特別な許可を得て撮影されたものです。無断転載等はできません。

【参加者の声】

◯プランクトンを自分で採集できたことが良かった。体験だけでなく、職員による説明もおもしろく聞くことができた。（海さんぽ①）

◯陸が海の生き物に影響を与えているのだから、その両方を一緒に考えなければいけない。（海さんぽ②）

◯美しい森の下に美しい海があることはすばらしいと感じた。（海さんぽ②）

◯拾ったものを分類して整理するのは初めてだったので、新鮮だった。（海さんぽ③）

◯ビーチコーミングでもゴミが多いと悲しい気持ちになります。（海さんぽ③）

※上記写真等は特別な許可を得て撮影されたものです。無断転載等はできません。

【事業全体のまとめ】

「海を学び、海に親しむ場づくり協議会」を中心に、「海辺のルール」策定に向けた議論を重ねることができた。今年度は町の海に関する課題を洗い出し、早急に対策が可能な事案（密漁、生物保護、水面を利用するレジャーなど）と、さらなる議論が必要な事案（海岸の占有、釣り、ゴミなど）に整理し、それを盛り込んだルールの素案を作成して町長に提出した。

講演会や自然体験イベントには多くの参加をいただいたが、特に「海トーク」は好評で、これまで博物館のイベントに参加していなかった新たな町民層を獲得することができた。

海の利用に関するローカルルールを求める声はこれまでも少なからずあったものの、協議にはいたっていなかった。今回、ミュージアムサポートの支援をいただいたことで、その実現に向けてスタートを切ることができた。「海の学び」をまちづくりに結びつける本事業は、社会における地方博物館の新たな役割と感じている。

主な連携・協力先について

連携・協力先名称	連携・協力の内容
1．真鶴町役場	協議会への参加
2．真鶴町教育委員会	協議会への参加、イベント実施への協力
3．真鶴町漁業共同組合	協議会への参加、イベント実施への協力
4．岩漁業共同組合	協議会への参加
5．一般社団法人真鶴町観光協会	協議会への参加、イベント実施への協力
6．横浜国立大学臨海環境センター	協議会への参加、イベント実施への協力
7．東京フリーダイビング倶楽部	協議会への参加
8．NPO 法人ディスカバーブルー	協議会への参加（事務局）、イベントの共催
9．箱根ジオパーク推進協議会	イベントの後援

主な広報結果について

掲載媒体名	見出し、掲載日
1．広報真鶴 11 月号（連載：ミュージアム便り）	海まちラボ、はじめました！、2021 年 11 月 1 日
2．湯河原新聞	海トーク「しらすを体験するには？」、2021 年 11 月 30 日
3．湯河原新聞	「海トーク」で募集、2021 年 12 月 8 日
4．湯河原新聞	「海トーク」で募集、2022 年 1 月 6 日
5．湯河原新聞	「海さんぽ」で募集、2022 年 1 月 22 日

以上

※上記写真等は特別な許可を得て撮影されたものです。無断転載等はできません。